

和泉市いずみの国歴史館二〇一五年度春季特別展

「和泉中央と桃山学院大学の二〇年 1995-2015」

記念講演会 桃山学院のあゆみと「マッサン」

西口 忠

西口です。今、紹介がありました。私はこの「二〇一五年」三月三十一日で定年退職になりました。ですから、肩書は桃山学院史料室とありますが、四月一日からは桃山学院史料室の特別研究員という肩書で、動いております。ボランティアです。

「マッサン」のモデルの竹鶴政孝とリタの関連年表です。竹鶴は一八九四（明治二十七）年に広島県の竹原で生まれました。そしてリタさんは一八九六年グラスゴウのカーカシテロフという町で誕生します。竹鶴は竹原の東側にあります忠海中学校を卒業します。その後輩に池田隼人総理大臣がいました。その後大阪高等工業学校、今の大阪大学工学部を卒業して摂津酒造という会社に入ります。そして摂

津酒造の社長阿部喜兵衛さんのすすめで、本場のスコッチの勉強するために、スコットランドに行きます。そこで、リタさんと出会って結婚します。キャンベルタウンで醸造の勉強をし、もちろんそれ以外にもたくさん醸造会社があるので、そこでも修行するわけです。そして、日本に帰ってきて、ウイスキーづくりをしようとすると、摂津酒造の経営難のために、ウイスキー作りを断念し、竹鶴は摂津酒造を退職します。その後、桃山中学校に化学の教師として雇われます。それはほんの数ヶ月で、寿商店の鳥井信治郎がこちらへきて、ウイスキー作りをやらなにかという誘いを受けて、ウイスキー作りを始めます。それが、大正十二年のことです。そのような経緯で、ウイスキー作りを始め

ることになりました。

まずテレビドラマの「マッサン」のモデルである竹鶴政孝から先に紹介します。テレビドラマは台本を作ってから、撮影に入るわけですが、私の所に台本が三種類送られてくるわけです。最初にまず白い台本です。これは初版といいますか、たたき台の台本で、それを改訂して、青い台本が届きます。最後に完成台本という形で、カラー表紙の台本が届きます。私が関わったのは、キリスト教指導ですの
で、最初の頃のキリスト教としての描写が正しいかどうかというところの点検になるわけです。そして、あつという間に「マッサン」の撮影が終わりました。その後、今年の二月二十七日に帝国ホテル大阪で「マッサン撮影終了を祝う会」というのがありました。約五百人程度が参加しました。NHK関係者、それから広島県竹原、北海道余市、大阪住吉のロケ地の関係者、それからもちろん出演者、時代考察、ウィスキー考察、キリスト教指導等の関係者が集まっていたわけでした。この写真は私が撮影したのですが、西川きよしさんが「主演の」お二人に夫婦茶碗を贈呈している時の写真です（写真②）。実は初めにこの会は写真撮影禁

止ですよとアナウンスがありました。そんなのだけれも守っていません。みんなこの人もちゃんと撮っています。私も負けじと前のほうへ行行って撮影しました。私もキリスト教指導ということで、少しだけ関わったということで、突然挨拶をしてほしいとチーフディレクターから言われて、壇上上がった挨拶をしました。その時にシャーロット・ケイト・フォックスさんは私のまっすぐ前のところの椅子にちょこんと座ってじっと聞いていました。どこまで日本語が分かったかわかりませんが、そういうことで、式の終了後、写真を撮らせていただきました。

桃山学院大学で展示した「竹鶴政孝とリタ展」は、ほんとにこの歴史館の展示と比べたら小さな展示コーナーですが、テレビドラマが始まった昨年九月二十九日から二回延長して、今年の三月十七日の大学卒業式の日まで、展示を行いました。ここでもたくさんの方に観ていただいていたわけです。今、この歴史館の展示場の左手のロビーみたいなところでビデオを流していますけれど、これもずっと大学でも流しました。

それでは、竹鶴政孝と桃山学院とはどんな関わりがある



のかということですが、実際には竹鶴政孝が桃山中学校で働いたという歴史的資料は今のところ全くありません。なぜかと言いますと、一九四五年三月十三日から十四日の第一次大阪大空襲で校舎がほとんど焼けました。もし人事記録があったとしても空襲で焼けてしまったので残っていないからです。もちろん写真もないし、何もない。ただ竹鶴自身が日経新聞のインタビューに答えて、それをまとめた「私の履歴書」(一九六八年五月)中にこのようにあります。「それからしばらく浪人生活をした。大正十一年(一九二二年)から十二年(一九二三年)の初めにかけての数か月間だったが、私にとってはウイスキーづくりを離れた一生で一度の生活だった。その間は学校の先生をした。帝塚山近くにイングランド出身の牧師、ローリング氏が校長をされていた桃山中学があった。妻のリタが、ローリング夫人と親しく交際していたため、失業を心配されて私を桃山中学の化学の教師に採用されたのである。一方、妻のリタも帝塚山学院で英語を教えるかたわら、英語やピアノの個人教授まで頼まれると引き受けていた。」「その間、学校の先生をした」とあります。

テレビドラマではキャサリンという女性が出てきました
 が、キャサリンの旦那は宣教師でイギリス人です。キャサ
 リンは日本人ですね。史実の宣教師はイギリス人であり、
 奥さんもイギリス人です。ローリングス夫人というのは、
 リリアン・ローリングスと言つて、文学者で上品な方です。
 このガウンを着た人が本来の歴史のほうに出てくるローリ
 ングス校長です（写真③）。桃山学院で長く校長をされて
 いた人で、非常に慕われた校長でした。このガウンを作っ
 たいわゆるテイラーもちゃんと分かっています。今の桃
 山学院高校のすぐ近くにある「ハレルヤ」というお店で作
 られたということまで分かっています。この写真の方がリ
 リアン・ローリングスです（写真④）。私は二〇〇八年に
 ローリングス校長のお孫さんのお会いしました。非
 常に上品な方で、また同じ年に、曾孫さんにも会いました。
 ローリングス家の家族の写真です（写真⑤）。左からシャー
 リー、ローリングス校長、リリアン・ローリングス、前に
 ジェラルド、マーガレット、このジェラルドというのは、
 日本で生まれましたので、ジェラルド・イヌイという日本
 語風の名前を持っています。マーガレットは、イギリスで

は非常に有名な女優になりました。

桃山学院との関係で、ニッカウキスキーが創業六十年を
 迎えたときに会長の竹鶴威さん、この人は竹鶴政孝の養子
 になった人ですが、この時は会長と社長の小原宏さんの名
 前で桃山学院に挨拶状があり、そして六十周年記念ウイス
 キーをいただきました。これも展示しています。ニッカウ
 キスキーの方もそういう桃山学院との関係、竹鶴政孝が一
 時期働いた職場にこういう形でつながりを持っていただき
 ました。そして、二〇〇四年は、ちょうどニッカウキスキー
 の創業七十年になります。アサヒビール資料室「二〇〇一
 年にアサヒビールの子会社となる」から写真六枚を提供し
 ていただきました。これも展示しています（写真⑥）。
 ここで、また年表にもどります。ここから、竹鶴の簡單
 な経歴を見ていきたいと思います。竹鶴政孝は、先ほど言
 いましたように、広島県竹原町に生まれました。竹原とい
 うのは呉と三原の間にあります。新幹線が止まる三原、そ
 れから、呉線に乗って竹原へ、安芸の小京都と言われた非
 常にきれいな街です。これが竹鶴政孝が生まれた「小笹屋
 竹鶴酒造」（写真⑦）。今も竹鶴壽夫さんが会長で、息子さ

んの竹鶴敏夫さんが社長です。竹鶴はさきほど説明しましたように中学校を出ると大阪高等工業学校の醸造科に行きます。この大阪高等工業学校は当時、日本で唯一醸造科があったところです。全国の酒屋の息子たちはお酒の勉強をしようとするので大阪高等工業学校に行かないと醸造の勉強ができません。そのため竹鶴もここで勉強することになります。これが竹鶴が卒業した時の卒業アルバムにのった写真です(写真⑧)。非常にばやけてます。これは余市にあります竹鶴邸の洋服ダンスの中にあつたアルバムを瞬間的に撮つたため、綺麗に撮れなかつたのです。

次は摂津酒造です。みなさんは、帝塚山の方へ行かれたことがあるでしょうか。阪堺線と上町線、上町線に「神ノ木」という駅があります。南海電鉄高野線「住吉東」の駅のすぐそばに摂津酒造がありました。帝塚山学院がその北側にあります。竹鶴邸は、竹鶴とリタさんが住んだ家は、「姫松」の駅の近くです。」最近、帝塚山で街づくりの運動をされている人たちによって、竹鶴邸の場所が特定されました。残念ながらまだ新聞報道が無いのですが、ほぼこだというものが分かつたそうです。いろいろ新しい資料

も発掘されてきています。竹鶴邸のすぐ北に現住吉高等学校、当時の住吉中学校があります。

桃山学院史料室が所蔵している資料で、摂津酒造の資料としては「第二回営業報告書」があります。株主総会の時に配られた営業報告書です。この資料に阿部喜兵衛という名前があります。また竹鶴政孝の名前もあります。竹鶴が五十株を持っていたということが証明される資料です。この阿部喜兵衛さんという人は、二代目阿部喜兵衛さんです。二代目ということは、初代がいたわけです。その後、三代目、四代目もいます。「営業報告書の資料は四代目阿部喜兵衛さんから提供していただきました。」

竹鶴はその後グラスゴー大学に学ぶことになります。イギリスの地図を見ると、右下にロンドン、上部左にグラスゴー、その東にエジンバラがあります。竹鶴はこのグラスゴー大学で勉強します。もう一つ、グラスゴーの西にキャンベルタウンというのがあります。グラスゴー大学で聴講生として竹鶴は醸造の勉強をします。この資料は入学許可証という聴講生のための許可書です(写真⑨)。これは実際に私が、一九九七年にグラスゴー大学に行つて、グラス

ゴー大学アーカイブズでコピーをしていたいただいたものです。竹鶴は聴講生として学びます。ほとんど大阪で学んだことと一緒にということで、竹鶴はその後スコットランドの各地で醸造の勉強、修業をします。そういう中でリタさんと出会うのです。一九二〇（大正九）年一月に両方の親、

リタさんの両親といってもお父さんはすでに亡くなっていくのですが、お母さんから反対され、竹原の両親からも反対されて、登記所で結婚します。登記所で結婚することとは、家族から喜ばれない結婚です。本来は、教会でするのが正式な結婚です。彼らは、登記所で結婚します。その時の資料が残っています。これはスコットランド国立記録所の資料です。桃山学院大学のある教員から「こういうのを見つけたよ」ということで提供して頂きました。次の資料ですが、会長兼社長であった人、竹鶴威さんが昨年亡くなって、今年の二月、「東京で」お別れの会がありました。その時、外務省外交史料館で「マッサン展」をやっていたので行くと、この資料が残っていました。先ほどの結婚登記書の資料に、ロンドンの総領事から日本の外務省に文書を添付して、広島県の竹原の方に送るといふ公文書で

すね。竹鶴政孝とリタが結婚した時、二人が横に並列に写っている写真があります。この写真は現物写真をアサヒビル資料室からいただきました。裏に一九二一年と書いてあります。結婚した翌年の写真かもしれません。そのところはまだはつきりしません。

そして、竹鶴は一九二二（大正十一）年に摂津酒造をやめます。摂津酒造をやめた頃、近くに「新生伝道館」という建物が開館します。新生伝道館というのは、桃山准教会を兼ねていました。桃山准教会の資料も展示しております。

一九二〇年からこの礼拝日誌が書かれています（写真⑩）。一九二一年頃に、この礼拝堂にリタさんが通った可能性があります。資料はいまのところ見つかっていませんが、行った可能性はあると思います。先ほどオルガンコンサートでオルガンをお聴きになった方は、きれいなオルガンを見たと思います。これは桃山中学校第二十回卒業記念として、桃山准教会に寄贈されたオルガンです（写真⑪）。そして、オルガンの裏側を開けて見られたと思いますが、あそこにもう一つ大切な物が保存されています。それはオルガンの保証書です。大正十一年と書かれていますので、当時のオ

ルガンであることがわかります。その桃山准教会は桃山学院から西へ五分程度歩いたところの吉野街道の近くにありました。現在王子卓球場があります。まだ確定していませんが、そこにあつたと推測しています。その新生伝道館、桃山准教会をそのままそっくり一九二七（昭和二）年に現在の昭和町の桃山学院のところに移築しました。

桃山准教会ができたところに、リタさんが帝塚山学院に就職します。卒業アルバムの中にある「竹鶴先生」という写真、一九二三年のアルバムですが、帝塚山学院から資料提供していただきました（写真⑫）。その時のリタさんの人事記録も展示しています。リタさんと竹鶴政孝との間には子供がいませんでした。リタさんは妊娠したのですが、流産のあとお医者さんから二度と子供は産めないと診断され養女をもらいます。養女がリマです。リマはリタさんのリ、政孝のマです。そのリマの教籍簿、洗礼名簿を展示しました。今の大阪聖アンデレ教会に残っています。教籍簿には竹鶴政孝、ローリングス長老、それからリタ、ローリングス夫人の名前があります。竹鶴政孝、リタさんと聖公会、桃山学院とをつなぐ資料と思います。竹鶴は寿商店で、十

年契約で雇われて、実際に山崎に工場を作り、ウイスキーを生産します。昭和四年に寿商店はウイスキーをはじめて出荷します。しかし、これは竹鶴政孝にとつてみれば、納得いかないウイスキーだったと思います。というのはもう少し待つてほしい、もう少し寝かせるべきだといったのを鳥井信治郎が、いや待てない、ということでも発売しました。実際には売れず、失敗したといえます。竹鶴は十年契約で、後にビール会社の工場長も経験した上で退職し、北海道に大日本果汁株式会社を作ります。

札幌のすぐ北西の方に積丹半島の付け根に余市があります。竹鶴政孝とリタのお墓から見ると余市の街の奥の方にニッカの工場があります。二〇一二年四月に私がニッカウキスキー余市工場に行つたときの写真があります。工場の内から見た正門、竹鶴が最初に作つたポットスチル、たくさん貯蔵樽、竹鶴政孝とリタが住んだ旧宅が写っています。注目すべきは旧宅の入口です（写真⑬）。この入口は丸くなって三角屋根で窓があります。この建物は日本ではあまり考えられない玄関です。これはリタさんが住んでいたカーカンテロフの実家の建物によく似ています。竹鶴政

孝はリタがはるか遠い日本に来て、故郷を懐かしむことを考えたのだろうと思います。普通、観光客の方はここから入って中の少ししか見ることはできません。居間には様々な竹鶴家の道具類が置いてあります（写真⑭）。竹鶴政孝が飲んでいたマイボトルがあります。竹鶴は毎日工場を出るとき、これに自分でウイスキーを入れ、家へ持って帰って飲んでいたので。若い頃、若いといっても、五十、六十歳頃にはこのマイボトル一本分、年を取ってくると、半分くらい毎日飲んでいたようです。竹鶴がウイスキーの会社の社長であるといっても、毎日ウイスキーばかり飲んでるわけではないのです。彼は食べ物によってアルコールは変えていたらしいのです。日本食を食べるときには日本酒、フランス料理の時はワインというように、お酒はその時によっていろいろ変えるべきであるということです。それから本棚があります。ほとんど英文書籍です。これはリタさんが読んでいた本だと思われま。リタさんは戦争中、敵国人というレッテルを貼られ、非常につらい思いをされたそうです。家に閉じこもっている時にすることといえば、本を読むことで、リタさんの本がたくさん並んでいます。

洋服ダンスは服もそのままの形で保存されています。最後に竹鶴政孝とリタさんの墓ですが、お墓からいつでもニツカウキスキー余市工場を見られるようにしているということです（写真⑮）。竹鶴リタさんは聖公会の信徒ですが、政孝は当初は聖公会の信徒ではありません。亡くなる直前に洗礼を受けました。洗礼名はアブラハムでした。東京聖三一教会の竹内司祭から洗礼を受けました。

次に、桃山学院のあゆみのところ少し触れていきたいと思えます。最初に言いましたように、桃山学院はキリスト教系の学校です。それも日本聖公会という教派の学校です。大きくキリスト教というのは、プロテスタントとカトリック、そして正教会があるという言い方をしますが、このプロテスタントとカトリックの中間にある教会、これが聖公会です。Church of England、英国教会につながる教会です。聖公会の学校としては東京では立教大学、立教学院です。それに立教女学院、香蘭女学校というのがあります。名古屋には、柳城学院、京都には平安女学院、大阪にはプール学院、神戸には松蔭女子学院で、戦後に設立された八代学院、神戸国際大学付属高校は野球部がよく甲子園

に出場しています。以上が聖公会系の学校です。学校以外では東京には、聖路加国際病院、大阪には聖バルナバ病院、福祉施設では、大阪には博愛社、堺にあります東光学園なども聖公会系の施設です。桃山学院は、イギリス系のCMSというミッションにより設立されたわけです。CMS (Church Missionary Society) は一七九九年に設立されました。現在、本部はオックスフォードにあります。

一八五九年、日本が開国になり、たくさんの宣教師が開港場に入ってきます。明治政府はキリスト教が広まることを敬遠して「五榜の高札」という様々な高札を出します。そのうちの 하나가切支丹高札、一八六八(慶應四年に)年に出されたものを現在展示しています。かなり文字が薄くなってきましたが「切支丹宗門の儀は是まで御禁制の通り固く相守べきこと」と書かれています。これはもともと一つの文章であったが、外国から批判されて二つに分けたもののです。

一八六八年、大阪では川口居留地が設置されます。川口居留地は現在、中之島の西側、中央卸売市場の対岸にありました。その全景を写した写真があり(写真⑯)、三角屋

根の建物が見えます。これは当時の聖テモテ教会、現在川口基督教会という形で残っています。大阪の居留地は狭いところですが、昭和町にあります桃山学院中学校高等学校の面積でいえばその一・五倍程度しかありません。非常に狭い土地です。また川口居留地の地図があり、一番から二六番まで書いてあります。桃山学院はこの三番というところにC・F・ワレン師が住み、その裏手に教会を設立します。のちに十二番に教会が移り、そこから桃山学院が誕生します。川口居留地の様子を一番よく表している錦絵として、『上方』(第九九号、一九三九年)という雑誌の表紙があります(写真⑰)。「車道と歩道に分かれた街並み、洋館」、「弁髪の人」中国人がいたり、「犬を連れて散歩をする西洋人女性」、「馬車」や自転車があつたり、大阪の中、日本の中の外国という雰囲気がありました。川口波止場の錦絵があります。川口居留地の東の木津川を挟んだ向かい側に大阪府庁がありました。一八七四(明治七)年に設置され、一九二六年、大正の末までここに大阪府庁がありました。大阪市役所も一時期、大阪府庁の中にありました。しばらくして、この建物の左手に市役所ができます。大阪府庁と市

役所がこの地にあつたという場所です。ここに宣教師たちが入ってくるわけです。最初は商人たちが入りました。大阪というのは外国の商人たちにとつては非常に商売をしにくい土地「保守的な商人、港の不備、厳しい取り締まり、阪神間の鉄道など」でしたので、多くが神戸に移っていきまます。神戸に移って行つたあと、宣教師たちが入ってくるわけです。宣教師たちは日本国内を自由に移動できるかというところではなく、遊歩規定と内地旅行免状というのがあつて、つまりパスポートです。「今日はどこへ行きたい」とか申請して許可をもらつて行くのです。その場合に許可が出る条件は二つしかありません。一つは學術調査、もう一つは病氣療養または病氣養生です。こういうものほども、日本でも、時間がたつといい加減な形になつてしまします。つまり、ほとんど認められるのです。キリスト教伝道とわかつていても、學術調査と書けば役人は判を押すわけです。そのためほとんど宣教師たちは自由に地方へ伝道にいくことができました。川口居留地からも和歌山、広島、島根、徳島など様々なところに伝道に行っています。川口居留地はいつたいどういふところなのかということ

です。大阪近代化を広めた場所とも言えるでしょう。一般によく言われているのは、大阪の近代化は大阪造幣局と川口居留地から広まったと言われています。造幣局はお金を作る場所です。そういう過程で西洋建築であつたり、ガス灯が最初に灯り、作つたお金を川口まで運ぶのに鉄道が作られました。川口には香港上海銀行がありました。造幣局が設置されて、それと貨幣を作るための硫酸など、つまり工業製品なんか造幣局から生み出される。一方、川口居留地は、生活の場ですので、そこからはパン、牛乳、香水とか、クリーニング、さらには、先ほどのオルガンみたいなものが導入され、大阪市民に広がっていきます。西洋料理や、ホテルもそうです。オルガンのことですが、この初期の頃のオルガンは先ほどあつたオルガンよりも小さいものが多いのです。明治の十五年頃までのオルガンは組み立て式です。当然船に乗せてきます。折り畳み式で組み立てて使います。桃山学院の關係では明治七年、あのオルガンは大正十一年ですが、明治七年のオルガンがあります。英国から来たCMSの宣教師、ワレンさんが持ってきたオルガンです。このオルガンは現在阪和線南田辺駅の東にあ

ります大阪聖三一教会にあります。これも修復して音がちゃんと出るようにしました。日本でもかなり古いオルガンとして現存していると思います。

また川口居留地から大阪の様々なキリスト教学校が生まれました。ワレンさんの写真をお見せします(写真⑱)。
ワレンさんが住んでいた家です。現在あります川口基督教会の最初の建物はこのような建物で、エッチング画も残っています。この右手の建物、この右手の陰に隠れているのが、英和学舎です。のちに立教大学校と合併します。立教学院のルーツは東京と大阪の二つあり、大阪の方が古いのです。英和学舎の前身もあります。そこから始めると大阪の方が古いのです。バルナバ病院は、現在鶴橋の西にあります。この病院は、大阪のお母さん方がここで産みたいという産科専門の病院になっています。もともとは川口から出発しました。「完全看護の近代的な病院でした。」

最初に言いました日本聖公会という組織について。一八八七(明治二十)年、川口居留地の三一神学校で成立しました。日本聖公会の成立も大阪だったのです。その時の写真が残っています(写真⑲)。川口居留地は一八九九年、

条約改正によって廃止されます。廃止された時の記念パティーの写真が残っています(写真⑳)。この写真は非常に有名で、読売新聞をはじめ様々なところに使われました。いよいよ桃山学院にはいります。

桃山学院は一八八四(明治十七)年、川口居留地の中に三一小学校「英語と聖書、初等教育を教える」、三一神学校をつくったことで始まります。後に三一小学校と三一神学校をつなぐ学校として高等英学校を作ります。高等英学校の開校式(写真㉑)、校舎と校長宅の写真が残っています(写真㉒)。高等英学校では、非常に高度な教育をしていました。宣教師たちが中心になり、英語で高度な授業をやった結果、学生たちがついていけず、多くが退学、また授業料未納もあつたのでしょう。放校処分、様々な形で退学していきました。二十人に一人くらいしか卒業できないのです。次々に退学していくと、学校として経営が成り立ちません。一八九三年、本田増次郎が副校長に就任すると、桃山学院は社会的評価を得ることになりました。本田増次郎によって桃山学院の基礎がつけられます。

一九〇二(明治三十五)年、大阪で最初の認可私立中学

校として「私立桃山中学校」が開校します。その結果生徒数が急速に増え、現在の昭和町に移転するわけです。その時の資料としては生徒たちがみんなで引っ越し作業をしている様子が絵葉書で残っています。

新しく移った田辺（現阿倍野区昭和町）の校舎の写真をみると、周りが全部畑ばかりです。その中でボツンと西洋式の学校ができました。校舎の北側を見ているので、右手が講堂で、講堂の裏手にアンデレ教会が後に移ってきました。一九一四年、大正天皇が陸軍特別大演習で桃山中学校の正門の前を通りました（写真⑳）。桃山中学校が大正天皇の休憩所となり、軍隊の御講評場とあって、陸軍特別大演習の結果を天皇が講評するという場も桃山中学校に設けられました。その時大正天皇が座った椅子や御真影とか教育勅語が入っている奉安殿の写真があります。一九一八（大正七）年、先ほどお話ししましたローリングスが校長事務取扱に就任、後に校長になります。このころはもうすでに兵式体操という形で学校教練等の演習が行われる時代になってきました。そして、一九二七年に桃山准教会が隣に移ってきます。英国の皇太子が来日した時、護衛艦の乗組

員達と桃山の学生がサッカーの試合をしたりしました。

戦後の写真を少しお見せします。戦争によって桃山の校舎はほとんど焼けましたが、一九四九年になって戦前の建物とほぼ同じ建物が復興しました。一九六〇年ごろの昭和町キャンパス。これは非常に珍しい写真です（写真㉑）。地下鉄御堂筋線の天井が開いています。桃山学院高等学校と中学校が見えます。ほとんど黒い屋根ばかりで長屋が続いています。今も昭和町辺りは長屋がそれなりに残っています。有名な寺西家は文化財として、現在の昭和町駅すぐ裏に残っています。

次の写真は大学を設置するために、功績があった勝部謙造です（写真㉒）。勝部謙造は島根大学教育学部部長でした。大学の初代学長として迎えられました。大学の歩みに入りますが、急いで進めたいと思います。入学式の風景で、一人ひとり入学宣誓署名している様子です。それから、イギリスのカンタベリー大主教が学院に來られた時の写真です（写真㉓）。ちょうどカンタベリー大主教が正門を入ってきたところです。一九五九（昭和三十四）年のことで、学生たちが並んで迎えています。この学生たちの横に注目

して下さい。何が見えているのかというと、牛です。乳牛がいます。桃山学院大学が開学した時、大学のすぐ横は道路を挟んで牧場だったのです。こういう時代ですね。学生たちが並んで、カンタベリー大主教が開学式の会場へ行かれるプロセッションを出迎えています(写真⑳)。開学式での八代斌助首座主教で桃山学院理事長が挨拶をしています(写真㉑)。大学が設置されたころの昭和町駅前です(写真㉒)。ほとんど高い建物はありません。このような雰囲気でした。大学ができた年の二年後の写真です。C館と書いてあるこの建物だけが唯一残っています。この建物は学院史料室が入っています。一九六四年に建設された本部の建物。それから、大学の十周年記念講演会に有名な作家であった小田実が講演をしました。小田実は桃山学院大学の助教授でした。この時期は学園紛争で大学のキャンパスは学生の看板であふれていました。

登美丘キャンパス、これは堺です。登美丘キャンパスにチャペルができ、パイプオルガンが設置されました。このパイプオルガンは現在の大学のうちのチャペルに移築されました。

「話は」最後の方に来ました。ここからが今回のもう一つのテーマである移転ということになります。大学が移転して二十年ということではじめたいと思います。配布資料の文章では項目しか書いていませんが、パワーポイントの方では少し内容を書きました。桃山学院大学はなぜこの和泉は移ってきたのか、ということですが。桃山学院は、二〇〇九年に創立一二五周年、大学五十周年を迎えて五十周年記念イベントをしました。そのイベントの中に、移転に関わった関係者に対談公開講座としていただいたのです。まず大学が和泉に移転したのは、どういうことなのか、「なぜ移転が必要であったのか」。まずこの写真を見て下さい。これは登美丘のキャンパスです(写真㉓)。この三角形のような土地で、建物がゴチャゴチャと狭いところに建っています。チャペルもあります。西除川という川があって、アンデレ橋が架かっています。この向い側も全部大学の土地ですが、建物を建てることができません。砂防地区で建物を建てることができません。このキャンパスの写真には写ってないですが、左上に第二グラウンドがあり、体育館を作り、民間の住宅であったものを研究棟にしました。

堺市と大阪狭山市の境がこの辺りにあり、大学事務部長室の中に堺市と大阪狭山市の境界があるという状態でした。ここを開発するということは様々な問題がありました。なぜ移転が必要であったのか、後発の大学に比べて建物の面で見劣りするのです。社会学部ができたころの写真です。一九六六（昭和四十一）年に最初の建物ができ、その後順番に建物が建っていきます。その後の文章にあるように、建物が不統一な状態、さらに砂防地区です。丘みたいなところにあります。障害者の方は車椅子で簡単に登れないという問題もあります。それに、何か建物を建てると下水処理の問題が出てきます。狭山池から下の治水組合との関係でいろいろ問題があるのです。建物一つ建てるのもたいへんなことがあります。そのために一つはちゃんとした建物を作りたいということがありました。

それ以上にもっと大きな問題は「一万坪の土地探し」です。一万坪の土地探しというのは文学部を一九八九年に増設した時、その当時の大学設置基準で一万坪の土地が足りない。文学部の完成年度一九九二年に一万坪の土地が無ければ、違反になるわけです。そのため大学では、土地問題

対策委員会を立ち上げて土地探しをしました。あちこち土地を探し、もちろん和泉の場所も対象の一つになっていました。歴史館へ来るためのまっすぐな道とそれから右の方へ行くと体育館へ行きます。その道は、桃山学院大学の土地ではありません。和泉市の市道です。大きく三つのブロックに分かれていて、この三つのグループのうち一つが一万坪以上あったので買おうとしていたわけです。ここに学園ゾーンが三つあります。このうちのどこかを購入すると設置基準を満たします。そのうちの一つは、短期大学で医療系の学校を作ることが決まっていました。和泉としてはここに三つのカレッジを置きたかったようです。しかし一つ医療系の学校が大学申請のためのノウハウがほとんどなく、結局申請を断念しました。そういうことで、三つのゾーンすべて使えるということになりました。大学としては一つ購入しても建物を建設する気は全くなかったのです。グラウンドとしてつかう。ただでグラウンドだけでは、和泉市にとっては学生は滞在しない。ところが短期大学が撤退したので、全部購入しようということになり、全面移転の話になってきました。

今度は学内の問題になってきます。三番目に、「学内合意の形成を目指して」とあります。ここに大きな三つの項目があります。借金無しの移転、借金無しですよ。桃山学院大学、桃山学院では過去にいろいろな経営の問題があった、借金に関して非常に敏感です。今だから言えますが、桃山学院の場合、四国の新居浜に短期大学を設置しました。桃山学院短期大学です。これは様々な経緯があり、難しい問題でした。毎年のように、ン億円の赤字を出しました。もちろん新居浜の短大を作る時も借金はしません、大阪には迷惑をかけませんということでしたが、実際にはそれはいきません。同じ法人の短大でしたが、結局学院側としては毎年この資金が大阪から支出されるということで、最終的に廃止を決めました。そういう過去の経緯があるので、今度の和泉への移転に関しても借金は絶対ダメということになりました。そのために、学院としては教職員学生等への説明会、ここは「等」と書いてますが、登美丘の前のキャンパスの場合は男子寮と女子寮がありました。男子寮は学内にあったので問題ないのですが、女子寮は学外にあり、おまけに委託になっていましたので民間の方にお願

いをし、寮を作り、もちろん借金もしてもらっていました。学生が入ればそこから寮費が入ってきますから、それで借金を返していく形でした。しかし、突然桃山学院大学が移転するという事になるとそれも全部狂ってしまうわけです。もちろん女子寮だけでなく、下宿もたくさんありましたので、そういうところへの説明会もしました。最後にこの全学投票というのがあります。こういうことをやった上で教職員がやはり納得しないと移転はできませんので全学投票というのをやります。『桃山学院大学移転事業報告書』というのが移転後に作成されました。移転に関わる内容が記録されています。全学投票について賛成・反対・白票という形で全教職員が投票した結果も掲載してあります。こういうことをしないと学内合意を得られないということですから。実際には苦労したと思います。

つぎに四番目に入ります。学内合意を得ても「和泉中央駅延伸」とキャンパスとの間の「通学路の確保」というのも大きな問題です。現在、和泉中央駅から来られた方は専用の遊歩道を通って、またトンネルを通ってくるわけです。もちろん、これは大学ができるまでは無かった道です。あ

の道がなければ、ずっと北側を、遠回りして来なければならぬのです。それを専用道路、通学路を作ることによって和泉中央駅とキャンパスを結びつけました。このような交渉をやってきました。それから、正門は先ほどのまっすぐの通路です。もう一つは北門があります。北門のところにも橋があります。あの橋も大学の橋ではないのです。あれも和泉市の橋です。やはりあそこに橋を作らないと通路としては、またこちらの正門までに行かないといけないなどといった交渉です。もちろん単にここに移るといふことだけでなく、移る場合には借金無しですから、そのためには、「移転事業の決定と登美丘キャンパスの売却」をしなければならぬのです。全面移転を一度にするというやり方は多分日本でも珍しいことでしょう。いろいろな大学が移転しています。私を知っているものでは、広島大学も広島市内から東広島市に移りました。もう何十年かけて移転しています。東京都立大学は私たちが移転してから見学に来ました。それも十何年かけてやっています。しかし、短期間で一度に移転するというのは非常に困難で大変だったと思います。それは最終的には教職員による学内投票の結

果、理事会が決定したということになります。この時の理事長は宮道大五、元三和銀行の頭取だった人です。桃山学院大学は山崎春成学長です。やはり、評価すると、特に山崎春成学長の役割は大きかったと思います。元大阪市立大学の教授でした。

次に「建設計画の策定」に入ります。設計会社は日建設計です。それから建築会社三社のJVということでメインの会社は銭高組、あとが大林組と南海辰村、この三つの建築会社がJoint Ventureをもつてやりました。この基本構想の説明会が一九九二年三月から四月にかけて行われました。これもたくさん資料があるので、一部だけ展示に出しました。最初の計画配置図があります。今とかなり違ってきます。教会はここにありますが、大体同じです。もつと前の計画ではこの歴史館のすぐそばに教会をもつていくという案でした。それに対して意見があり、現在のところを決まったのです。教室棟も、もともとは完全に中庭を校舎で囲んでいる形です。中庭という考え方が英国式キャンパスです。私は「イングランドでは」ケンブリッジ大学、オックスフォード大学、「バーミンガム大学」しかキャン

バスに行つたことが無いんですが、ケンブリッジ、オックスフォードなんかに行くところの中庭になっているというの
はわかります。その後、幾度も計画図が変更し、ほぼ決まっ
たのが、この計画図です。これは、今ほとんど変わらな
せん。

いよいよ一九九三年三月から工事がはじまります。パン
フレットにもありましたように起工式の写真です（写真
③①）。一九九三年三月二十一日に行われました。何もな
いところからはじめるわけですから、もし雨が降つたら大変
ですから、ものすごく大きなテントを借りました。テン
トの中で起工式を行いました。赤い祭服を着ているのが聖
公会の主教さんです。いよいよ工事が始まります。学内合
意を得ただけであと何をしているか分からないでは、教職
員が納得しません。移転ニュースというのをカラーで発行
します。カラーコピーは、今では、当たり前ですが、これ
を出すためにわざわざゼロックスのカラーコピーを導入し
ました。毎月、移転状況を写真でみせるのです。いろいろ
なことを知らせ続けていました。これも展示されています。
この写真はおもしろいですね。これは桃山学院じゃないで

す。J.Vさんの工事現場のところにある工事関係者用揭示
板。私、これ一番気に入った写真です。何が気に入って
いるかというとこのスローガンですね。「するな。させるな。
勝手な行動」いやーこれはどこでもそうですけど桃山学院
でもね、私も含めてですよ。好きなことややって好き勝手な
行動が多いんですよ。これはその当時何回もこういう言葉
を私も言ったと思います。「するな。させるな。勝手な行動」。
肝に銘じて教職員は守ってほしい。こっちの方もまた決め
たことを守り実行させる。当時ですよ。その当時本当に一
番気に入った写真でした。いよいよ工事が始まると今、建
物がいっぱい建っている状況です。何もないところから
こういう形で工事が始まります。この建物はこれが現在の
聖ペテロ館です。ここから行くと左手に見える建物です。
これがチャペルです。こちらは聖バルナバ館です。工事は
はじめに戻りますが、当初はこういう更地で、何もないと
ころでした。このところに建物が建っていくわけです。こ
れが一九九三年三月です（写真③②）。一九九三年十二月には、
もう建物の基礎がほとんどできてきています。一九九五年
三月完成ですが、一月から三月にかけて、ここへ教職員が

移ってくるという形でした。このキャンパスのすごいところは、歴史館から見ると教室棟が右手、左手に管理関係の建物があります。地下で全て共同溝という形でつながっています。暖房やもちろん水道やら電気やらあらゆるものが共同溝を通して繋がっています。それと、これだけの建物を作るわけですから、様々な実験をするわけです。一つは煉瓦実験です。これも煉瓦を展示しています。オーストラリア製の煉瓦で移転時には約八十万個の煉瓦を使ったわけです。普通の煉瓦と違って、穴が開いていて、ここに鉄筋が入ります。「一つ一つの煉瓦の色合いが違います。」ですから建物はゆったりとした感じが初めからもてると。様々なイベントをしました。その中で一つ紹介します。谷村新司コンサートです。大阪城ホールで一人コンサートをしました。谷村新司さんは、桃山学院大学の入学生です。卒業はしていません。しかし、谷村新司に頼んで「WILL」というキャンパスソングを作ってもらいました。この谷村新司がニッカウヰスキーのスーパーニッカのコマーシャルソングを作ったということの繋がりがありました。このように最後に移転事業報告書は作られ、二〇〇九年に行われ

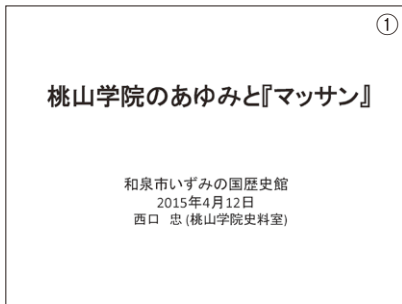
た学院創立百二十五周年、大学五十周年感謝式があり、また、ローワン・ウイリアムズ、カンタベリー大主教が来られて、礼拝をしました。現在の聖ヨハネ館は、二〇〇九年に五十周年記念館として建設されました。

ちょうど五分前になりましたので終わりたいと思います。ありがとうございます。

※本稿は二〇一五年四月十二日に和泉市いずみの国歴史館でおこなった記念講演会の記録に一部加筆（「」部分）したものです。なお、スライドについては省略したものがあ
ります。
(特別研究員)



⑤
ローリングス
夫妻と子供達
左:シャーリー
中:ジェラルド
右:マーガレット



⑥
結婚直後の竹鶴政孝とリタ 1920年 ※6枚のうち



②
西川きよしから二人にそれぞれ夫婦茶碗を贈呈



⑦
小豆屋 竹鶴酒造



③
G.Wローリングス (1868-1933) 校長事務取扱就任 1918年
校長 1920-1932年



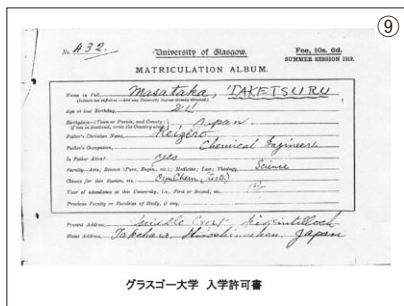
⑧
卒業時の竹鶴政孝(1916.3)



④
リリアン・
ローリングス



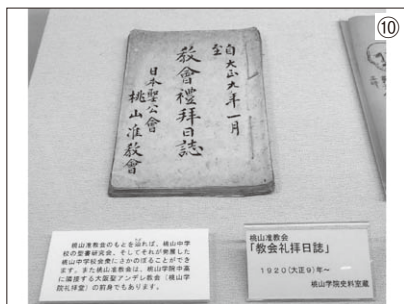
竹鶴政孝とリタが住んだ旧宅 2012年4月撮影



グラスゴー大学 入学許可書



竹鶴旧宅の内部(1)



白山教会
「教会禮拜日誌」
1920(大正9年)
桃山学院史料室蔵



余市町営墓地の竹鶴夫妻の墓 2014年4月墓前礼拝



1922年のリードオルガン 桃山中学校第20回卒業生寄贈



川口居留地の全景 1893年



最近見つかった卒業アルバムに載ったリタ 1923年 ※帝塚山学院提供





地下鉄御堂筋線昭和町駅南口交差点より南を見る 1959年頃



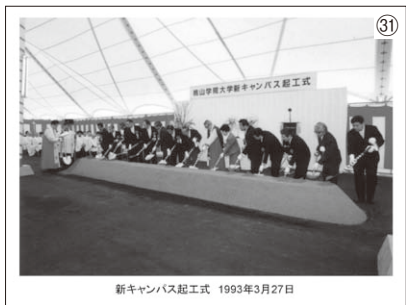
勝部謙造新学院長に就任 1955年



登美丘キャンパス 1990年頃



大学開学式 オープンカーで来学するカンタベリー大主教 1959年



新キャンパス起工式 1993年3月27日



開学式の会場に向かうプロセッション



建設前のキャンパス 1993年3月



大学開学式で挨拶する八代規助 1959年 カンタベリーホール